

設計主旨

天竜地区は人口の減少と大型店舗の進出により個人商店の空家が激増しました。この寂しくなった町並みに少しでも人が行かうような空き家利用を出来ないかと思い、このテーマに取組んでみました。

特に若い人の減少が目立つため地域の行事を盛り上げることができなくなり、行われなくなった行事があるとも聞きます。また、その影響から地域内での交流が少なくなり、非常に寂しい町並みにつながっているように感じます。

地域の活性化を目指し、安全に楽しく暮らすためには私たち若い世代が積極的に行事へ参加し交流することだと思います。しかし、地域の行事など詳しい情報は握っていないのが現状です。その情報を得られる場所を設けることで必然的に地域の人口と触れ合い交流の切っ掛けになればよいと考え『交流の懸け橋』となる拠点をつくることにしました。

通学路と商店空き家の検証

私たち天竜高校生は鉄道を利用して西鹿島駅から学校へ自転車や徒歩で向かう者がほとんどで、その通学途中に多くの中学生とすれ違います。中学生は二俣地区・城下地区・鹿島地区のそれぞれの地区から鹿島橋を渡り中学校へ向かう生徒が大半を占めます。

すれ違う位置にある空き家を交流の場所として利用できないか考え、通学路に商店の空き家が何軒あるか調べたところ11軒もの商店空き家がありました。

空き家利用の考え ①図書交換所

多くの学生が立ち寄り利用してもらうにはどうしたらよいか考えました。

中高生とも馴染みがあり多くの種類の文庫本を必要としています。そのため、貸出図書館として利用し多くの学生が通学途中に立ち寄ることを目指しました。

商店空き家は1階の売り場面積が広くとられているので本棚を置く場所が確保でき最適な建物です。

1階の売り場面積が広いこと、学生の通学路に建つことの2つの条件を満たしていれば、どの空き家でも利用可能です。そのため、地域ごとに交流の懸け橋となる拠点を置くことができ街の活性化につながります。今回は、二俣地区・城下地区・鹿島地区3つの地区にある商店空き家を利用しました。

中学生が住んでいる地区であり、この地区ごとに行事が行われているため、その特色に合わせて交流をすることが狙いです。

図書交換所のシステム

市の図書館のような貸し出し方では気軽に色々な本を借りて読むことが難しく管理が大変なので、利用者が少なくなります。そこで物々交換的な貸出方法を思いつきました。

自分の家にある読み終わった本を持ち寄り、違う本と交換していくというシステムにすることで本の増減はなく色々な本を読むこともできます。

本は自分の学校の生徒や地域の人に提供していただけるように、お願いする活動をして増やす努力もします。この活動も交流の切っ掛けとなります。

本棚にはブックケースに入った本が並べられます。ケースごとカウンターで管理人へ持参して行き自分の持ってきた本を、その場所へ入替えます。

空き家利用の考え ②伝統行事の継承

この地域は遠州大念仏がお盆の間に開催されています。これは、徳川家康が三方原の合戦で負けて以来行われている行事で盆や盂に合わせ大念仏を唱え太鼓を打ち、とよばれる人が集い、亡くなった人を弔うというもので浜松市の無形民俗文化財にも登録されている行事です。

その文化的な行事に参加する人が高齢化していると聞いています。また、若い人と接触できる機会と場所を探しているが良い案が見つからないと悩んでいます。そこで、交換図書館の管理人を保存会の人が行えば、朝夕と利用する中高生との接触が可能となり伝統行事を継承する場所にもなると考えました。

Ⅲ 二俣地区の空き家



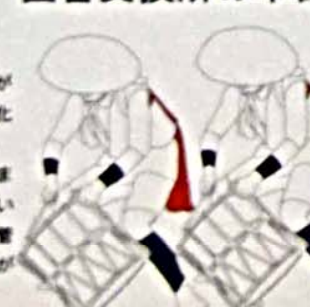
天竜地区
商店空き家位置
学生通学路範囲



西鹿島駅

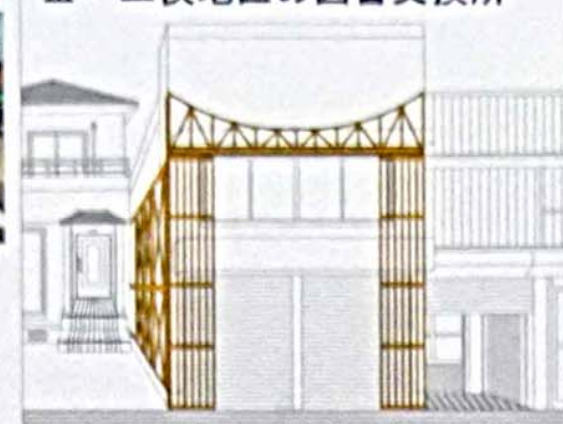


図書交換所の本棚



遠州大念仏

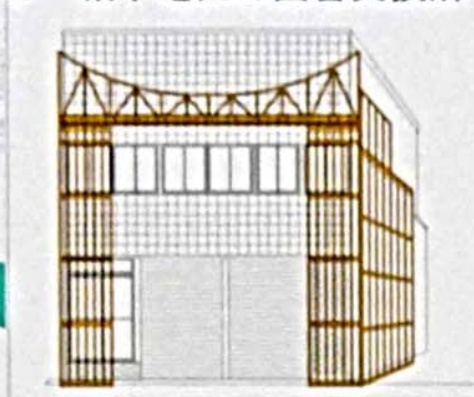
Ⅲ 二俣地区の図書交換所



Ⅱ 城下地区の空き家



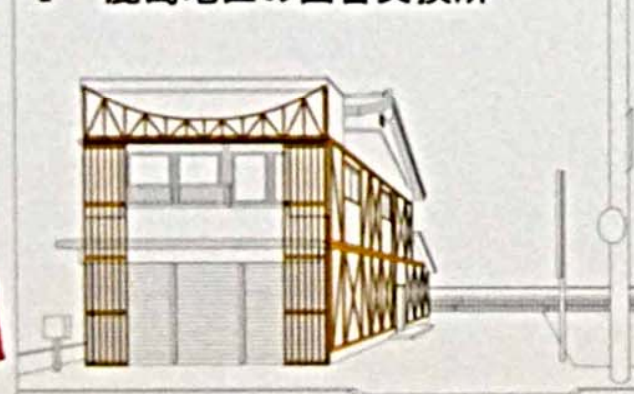
Ⅱ 城下地区の図書交換所



Ⅰ 鹿島地区の空き家



Ⅰ 鹿島地区の図書交換所

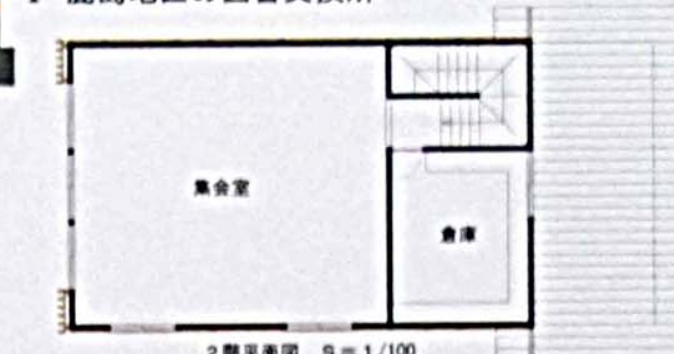


地域の暮らし

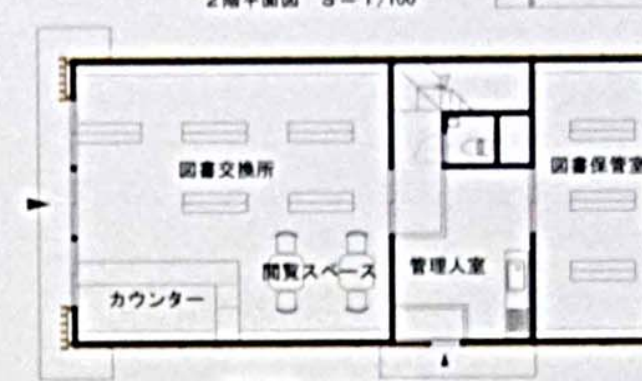
「空き家を生かす」

交流の懸け橋 『図書交換所』

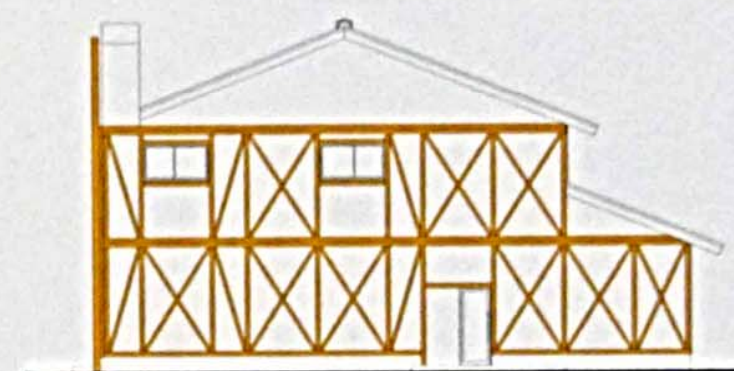
Ⅰ 鹿島地区の図書交換所



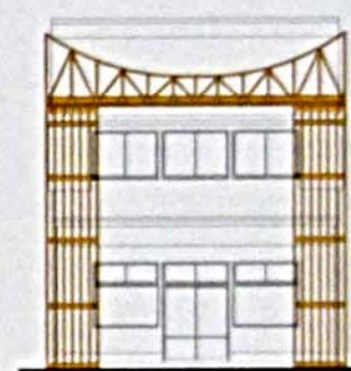
2階平面図 S=1/100



1階平面図 S=1/100

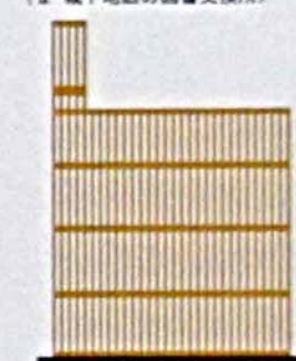


南立面図 S=1/100

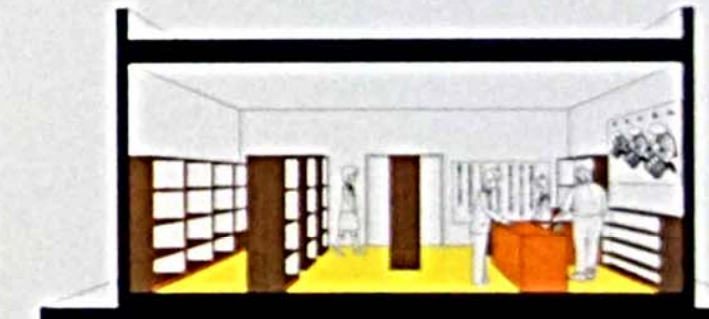


西立面図 S=1/100

Ⅱ 城下地区の図書交換所



鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造
の側面は杉材の格子で飾る



内観パース

空き家利用の考え ③建築物について

空き家は極力そのままの状態で使用します。そうすることで地域の人口に変わらない身近な場所として利用してもらえるからです。しかし、空き家は老朽化が進んでいる箇所もあるため補強する必要があります。そのため、入口側は天竜杉材を格子状に組んで補強します。その上部には「交流の懸け橋」のテーマに合わせ鹿島橋をイメージとした木製の骨格をシンボルとしておきます。そして、側面は天竜杉材をハーフティンバー風に組んで補強し、意匠的にも図書交換所だとわかるように特徴づけることを目指しました。

図書交換所内はカウンターの設置してある壁面に行事の掲示をします。また、書架は建具の高さを限度として、それ以上の壁面にも行事の掲示を行うことにします。カウンター横には閲覧スペースを確保し管理人の方と触れ合えるようにしました。行事に興味を持った人には管理人が直接話して伝えることができます。その他の部屋は集客室として使用し学生へ行事の知識を伝えたり練習後の休憩をとる場所とします。

本を置くスペース、図書保管室、管理人室や集客室。行事などで使用する道具用の倉庫さえあれば、どの空き家でも使えるように設定しました。

空き家利用の考え ④将来的展望

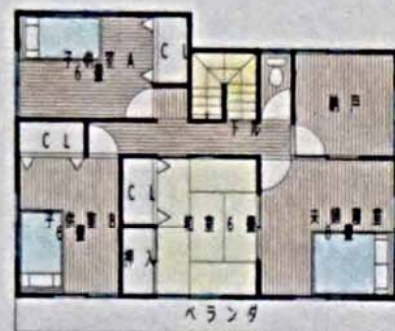
○将来的には地域ぐるみで若年者を育てる拠点とする。
○登下校時に働いていただいている交通指導員の方の待機場所や休憩場所として提供する。
○大人が気軽に若年者に話しかけることができるので学校との連携で相談室的な場所としての活用。

シニアシェアハウス

～第三の老後生活～

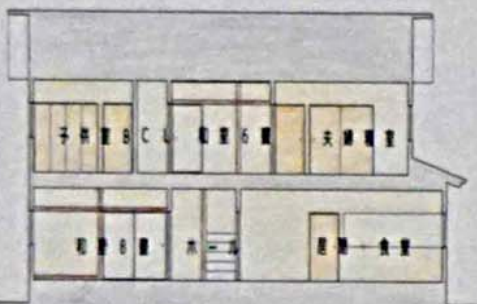


1階平面図 1:100

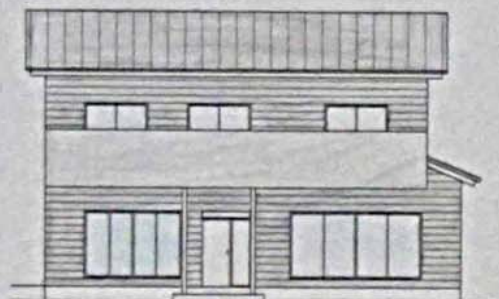


2階平面図 1:100

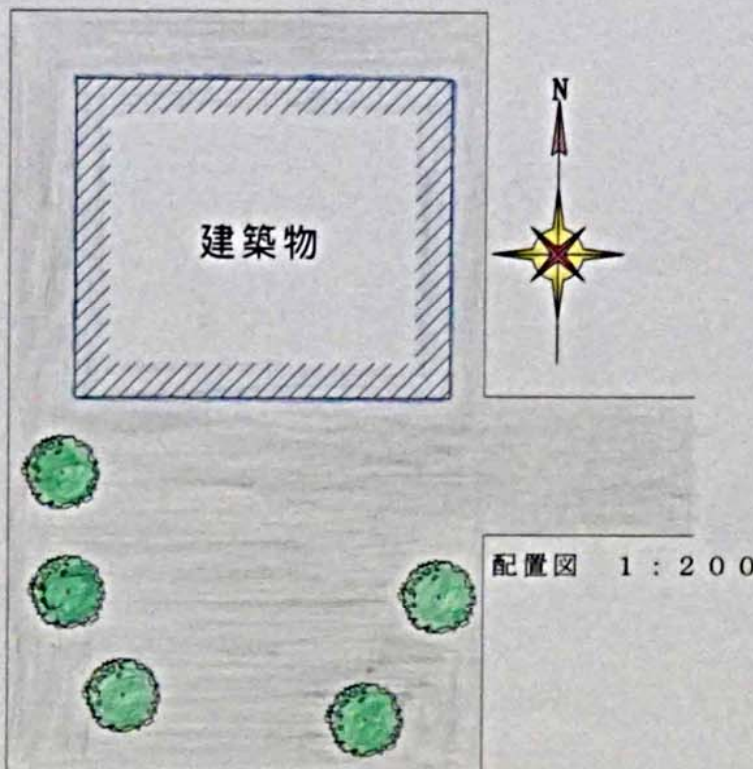
Before



断面図 1:100



南立面図 1:100



配置図 1:200

日本の空き家率・13.3% (2008年)

静岡県の空き家率・17.8% (2008年)



田中さん (68歳)
妻は4年前に他界。
一人暮らしをしていた所、
小林さんの紹介で入居。
趣味は、ゲートボール。



田中さん (65歳)
元々この家に住んでいた。
趣味はガーデニング。
一人暮らしをしていた小林さんを
心配し、リフォームを決意。



小林さん (70歳)
10年前に離婚。
以来一人暮らしをしていた。
心配した親友の佐藤さんに勧められ
入居を決意。

夫婦で家族がいない。
知人の紹介で入居。
趣味は読書。



田中さん (65歳)
半年前に妻が他界。
小林さんの紹介により入居。
ヘルパーさんの介助もあり、
楽しく余生を過ごしている。



小林さん (70歳)

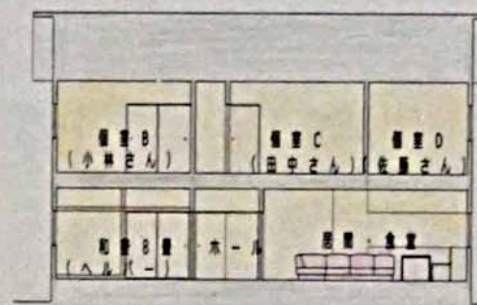


1階平面図 1:100



2階平面図 1:100

After



断面図 1:100



南立面図 1:100

空き家の問題

空き家になる理由は、別の住宅に住み替えた後当面は売却や賃貸をするつもりが無いまま放置していたり親から相続したままだったりあるいは別荘などとして購入したがそのまま使用せずに放置するという状況がある。また、空き家や所有者のうち売却や賃貸などを検討しているのは、24.0%で、71.0%の人は特に何もしないまま放置している状況。さらに空き家について、特に管理すらしていない人が12.8%もいた。また管理がなされていない空き家は景観が悪くなるだけでなくゴミの不法投棄のたまり場になったり放火や不法侵入などの犯罪の温床になる懸念があるほか、地震などの災害が発生した場合に倒壊して避難路をふさぐといった大きな問題を生じさせることになる。

シニアシェアハウスの住民構成

住民は老人が5人、ヘルパーが1人として想定し、老人のうち1人が車椅子で、後の4人は杖や手すりが必要ではあるものの、まだ1人で歩ける丈夫な体である。しかし、赤の他人同士がいきなり同じ屋根の下で過ごすとなると最初はなかなか上手く関われないだろう。なので居住スペースである2階へ続く階段とエレベーターを人が集まりやすいリビングに接するように設計した。これにより起床、就寝する際にはリビングやキッチンにいる人と軽い挨拶ができる機会が生まれた。

力を与える育つ家

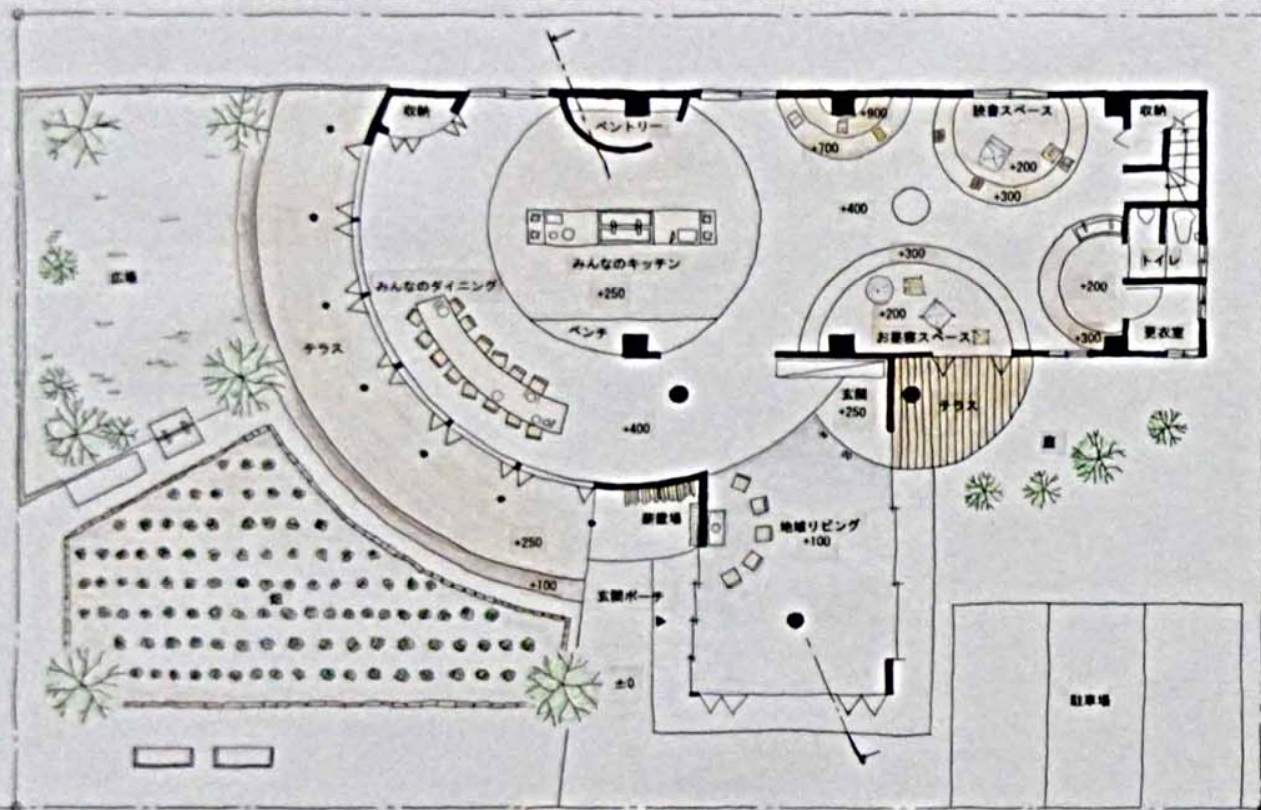
力を与える育つ家

そのガソリンスタンドは、車にエネルギーを与えていた
家となった今、その家を見ることはできない
ここで再び、エネルギーを与える力を創らせる
今度は、車ではなく、地域にエネルギーを与える

鳥田市で昔から続く「蟹祭り」と「帯祭り」
忘れられつつある女性を大切に思う気持ち
女性を大切にすることで子宝にも恵まれる

子宝
子育ては幸福で

ここで再び、女性を大切に思う気持ちを創らせる
ガソリンスタンドの持つ開放感や、強さを活かす
地域にエネルギーを与える
地域に寄り添う子育て支援の住まいの提案



配置図第一階平面図 SC. 1/100

背面道路



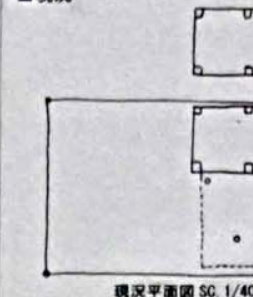
南側立面図 SC. 1/100



鳥田市の問題点について

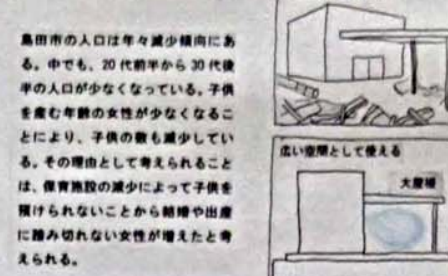


鳥田市の人口推移



現状

鳥田市のガソリンスタンドは、耐火性、耐震性に非常に優れている。地震の際、ひき起こると予測される車を、素直に倒す。災害に強い建物と考える。
また、大きく、丈夫な屋根がついていることも大きな特徴である。



鳥田市のガソリンスタンド



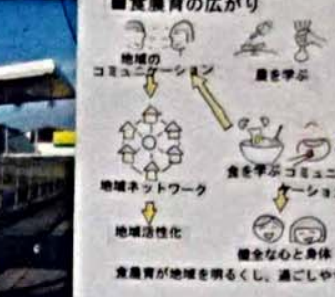
鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド



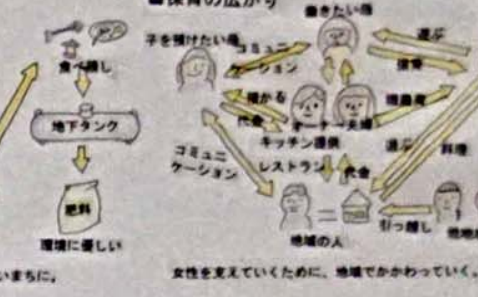
鳥田市のガソリンスタンド



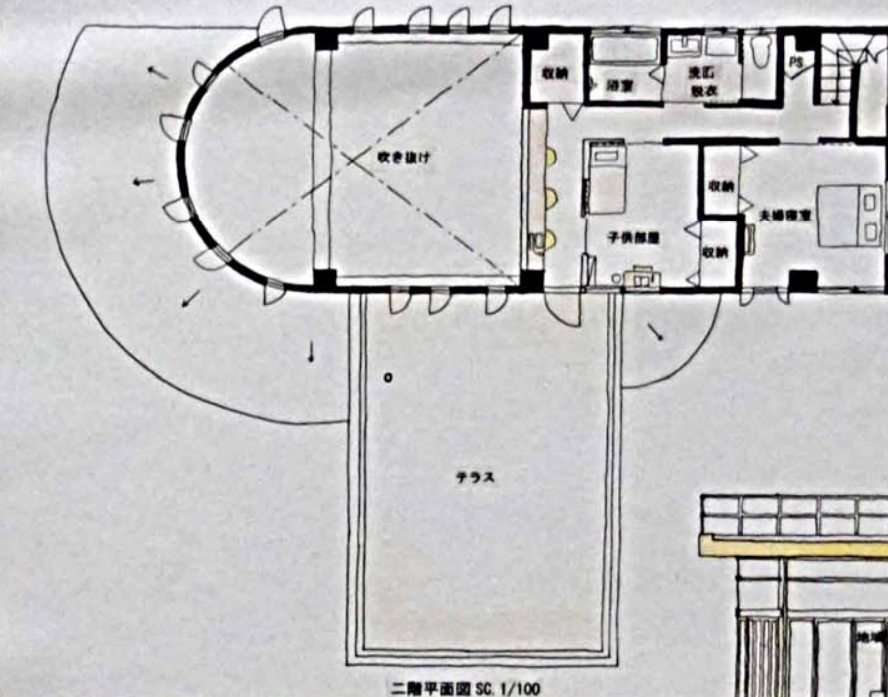
鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド

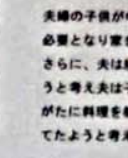


二階平面図 SC. 1/100

鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド



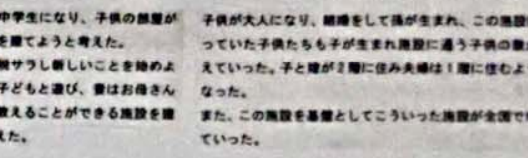
鳥田市のガソリンスタンド



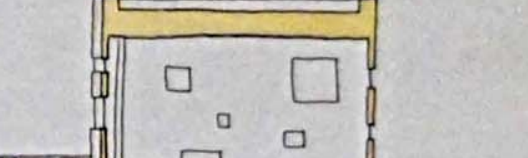
鳥田市のガソリンスタンド



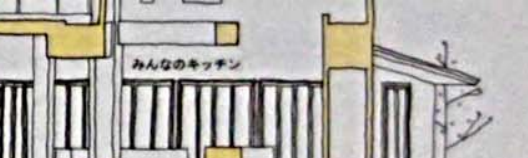
鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド

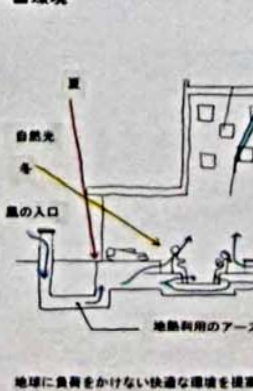


鳥田市のガソリンスタンド



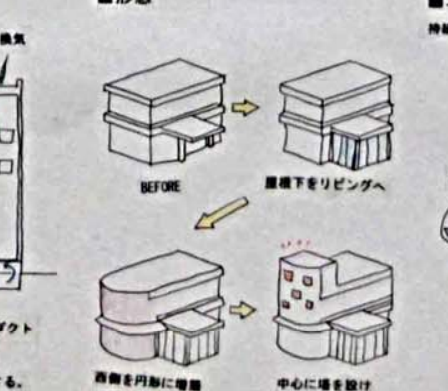
鳥田市のガソリンスタンド

鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド

鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド

鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド

鳥田市のガソリンスタンド



鳥田市のガソリンスタンド

和ンモアタイム

現在、新たな問題として空き家の存在が目立ってきました。「空き家」が出来る原因として生活のしかたが変わってきたことが挙げられます。欧米諸国に比べ日本の住宅の寿命はとても短いのです。その理由は、まだ十分使える住宅を壊してしまう事にあります。今ある住宅を長く活用していく事が住宅寿命を延ばす事に繋がると思っています。一方で相続人がいない、解体に多額な費用がかかるといった理由で放置されてしまう家屋もあります。この家も別荘しにより空き家になりました。

しかし、増えていく空き家をただの邪魔なものと考えず利用しようと思ひます。そこで海外から来た富士登山客を対象にしたウィークリーマンションの様に使うことの出来る家を考えました。長期滞在者を対象にした理由は富士山の天候は変わりやすく登山できない場合もある。しかし、富士宮市にはホテルの数が極めて少なく登山客を受け入れることが難しい状態です。また、ホテルに泊まるだけではその国や地域の生活を味わうことが出来ません。

現在ある空き家や空き店舗を利用し、町全体に宿泊棟を離散的につくる事により観光客や登山客を滞在させる事が可能になります。

外国人に宿泊してもらうために、配を脱いで家に上がることなどの日本の生活を模し、和室には囲炉裏や日本庭園をつくり、日本の「和」を感じてもらえるように設計しました。

さらに、富士山を一望できる様に、ヒノキの露天風呂と2階にデッキを造りました。

富士宮市

富士宮市は北方に世界文化遺産である富士山を有し、その構成遺産である浅間大社などを有する。浅間大社は全国に1,300社ある浅間神社の総本社であり、地元の住民や多くの観光客が遠方から参拝に訪れる。

市内には富士宮駅を中心として広がる市街地、全域が富士箱根伊豆国立公園の区域内となっている富士山麓地区、桶子川温泉や瓜島温泉といった温泉が湧く温泉地である旧芝川町地区の三つの地域に分けられる。

なかでも、中心市街地にはB級グルメとして有名な富士宮焼きそばやその他に富士宮市のご当地料理が食べられるお宮横町やせせらぎ広場などがある。市北部には観光スポットとして有名な白糸ノ滝や陣馬の滝、レジャー施設としてはまかいの牧場やミルクランドなどがある。近年増加している富士登山客に関しては、県内に三つある富士登山口の一つである富士宮口を有し、富士宮口は県内登山口の中でも最多登山者数を記録している。しかし富士宮市には外国人観光客を対象にした宿泊施設が皆無です。

計画地

富士宮市元城町



静岡県



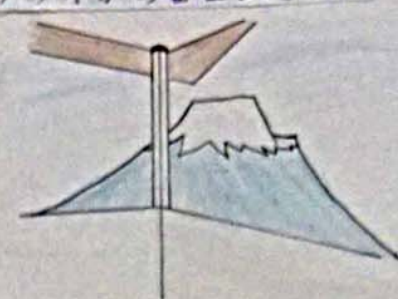
元城町

・空き家 → 宿泊棟



富士宮市

デッキから富士山を望む



配置図兼1階平面図 1:100



2階平面図 1:100



配置図兼1階平面図 1:100



2階平面図 1:100

図例

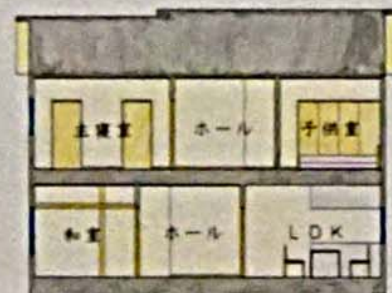
構造：木構造
規模：2階建
面積

	空き家	宿泊棟
敷地面積	288 m ²	288 m ²
1階床面積	87.28 m ²	87.74 m ²
2階床面積	54.85 m ²	56.31 m ²
延床面積	142.13 m ²	144.05 m ²

工事費
増収費



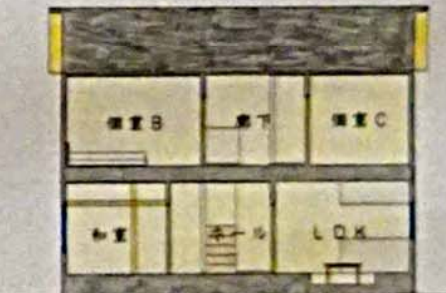
南立面図 1:100



断面図 1:100



南立面図 1:100



断面図 1:100

富士宮の空き家をレストランに

富士宮市の約半分が富士箱根伊豆国立公園区域内であり、市北部には朝霧高原が広がり、その周辺には日本の滝百選・白糸の滝・音止めの滝といった自然観光地を持ちます。

その中でも、富士宮市の一番の魅力は2013年に、世界文化遺産に登録された富士山です。その

高さは標高3776メートルと、日本一の高さをほこり、多くの観光客に、訪れられています。また、秋から冬にかけてダイヤモンド富士という富士山頂に太陽が重なる瞬間、ダイヤモンドのように輝く現象が起きることもあり、多くの感動を与えてくれます。

富士宮市は富士宮焼きそばでも、有名です。B1グランプリにおいては第1回、第2回は1位、第3回は特別賞となり、人気を誇っています。

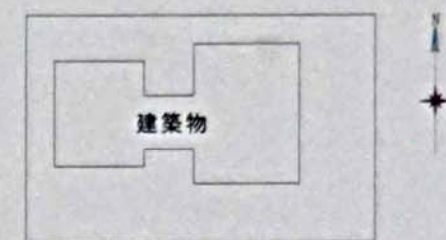
朝霧高原には、数年前に、あさぎりフードパークができました。

お茶工房「富士園」、「和スイーツ 朝霧工房」、「甘味処 かくだに芋工房」、「富士正酒造あさぎり蔵」、「あさぎり牛乳工房」、

造工程をみることができます。子供さんと来ればとても喜んでくれるでしょう。酒蔵もあるのでお父様も楽しむことができます。

まかいの牧場に来れば牛の乳搾り体験など都会では決して体験することができません。

皆さんもぜひ富士宮市に遊びに来てください!!!

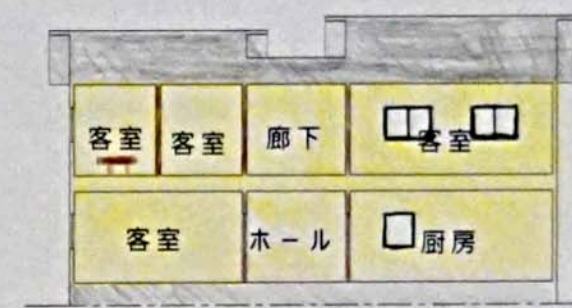


配置図 1:200

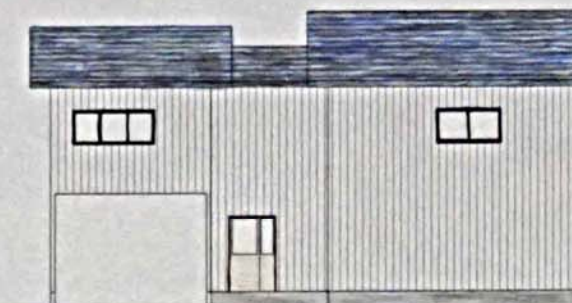


立面図 1:100

AFTER



断面図 1:100



立面図 1:100

BEFORE



断面図 1:100



空き家になったのは車好きの家の主人が別の家に引越しをしたため、空き家になった

前の家の構造がレストランに向いていると思ったから

空き家の現状

なぜ、空き家が増えているのだろうか？

空き家が増える理由は、核家族化に加えて、高齢者などの一人暮らし世帯が増えているから。

もし、空き家の所有者が空き家を撤去しようと考えても、空き家の取り壊しには最低でも数十万円の費用がかかり、また、空き家を更地にしてしまうと固定資産税の軽減措置が受けられなくなってしまうから空き家が増えている。

国や県、市などが行政が少しずつ取り組みを始めているが、空き家数や空き家率の数字は増える一方

2005年以降は、主に単独世帯が増えてきたことによって世帯数の増加スピードが高まっている。

その結果として、空き家率の増加が鈍化している。

しかし、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、総世帯数は、5305万世帯となるのをピークにその後は減少している。

そのため空き家率の増加スピードは再び高まっていて、2023年の空き家率が21.0%にまで高くなる。

空き家率の上昇を抑えるためには、世帯数の減少に応じて、総住宅数も減らす必要がある。

静岡県空き家率16.3%

空き家の総数は毎年少しずつ増えている。空き家のうち

賃貸用又は売却用の増加量は減少しているが

「その他の住宅」の増加率は増大している。人口の減少、高齢化社会に伴い

空き家が増加するのは間違いない。空き家の中には、買い手と借手

募集していないそのまま置かれている状態の空き家も存在する。

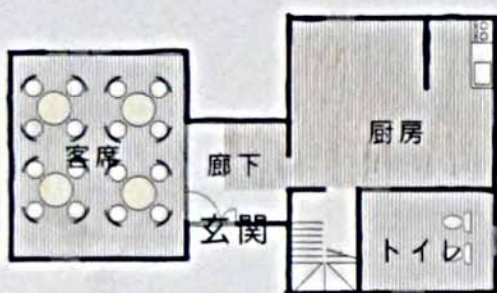
空き家を所有している人のほとんどが特になにもしておらず、

別の住宅に住み替えた後、当面は売却や賃貸をするつもりがないまま放置したり

親から相続したままだったり、あるいは別荘として購入したが、使っていないという

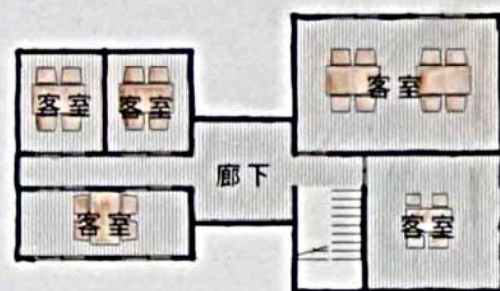
ことなどが理由で、空き家は残ったままのことが多い。

1階 AFTER



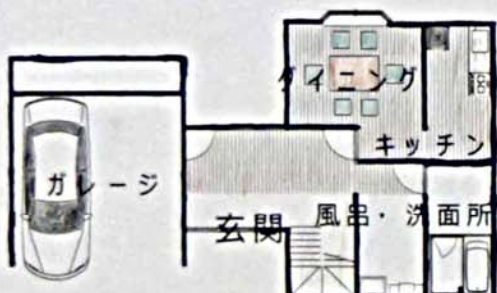
1階平面図 1:100

2階 AFTER



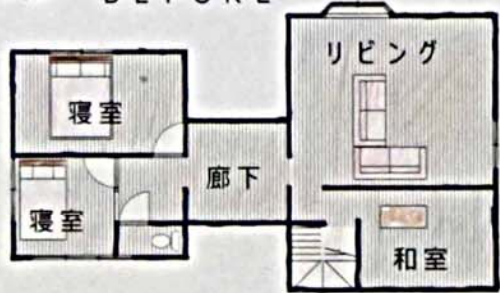
2階平面図 1:100

1階 BEFORE



1階平面図 1:100

2階 BEFORE



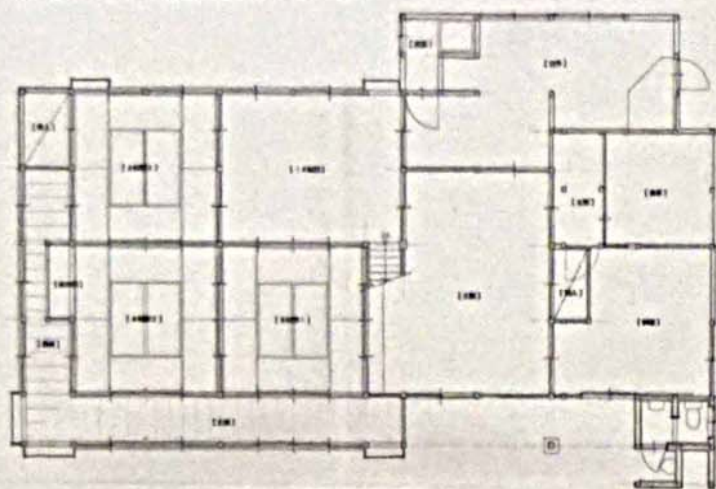
2階平面図 1:100

Kageyama家改造計画



コンセプト

現在、浜松市の浜名湖周辺では若い世代の人達が他の土地へ移り住み、空き家が増えてしまうという現象が見受けられている。このままでは、様々な特産物があるにもかかわらず、後継者の数が減少していき、それらが危機に陥ってしまう。そこで私たちは、浜名湖周辺にある1つの空き家を改築してその周辺に住んでる方々が気軽に、休憩や食事、宿泊をしたり、その土地でとれた野菜や果物、魚介類などを購入したりと、様々な目的で利用することが出来る施設へと改築することにした。この施設が出来れば、訪れた人同士の会話がはずみ、地域での交流が活性化され、他の土地へ移り住む人の数が減少すると考える。浜名湖周辺に空き家力がついた提案となっている。

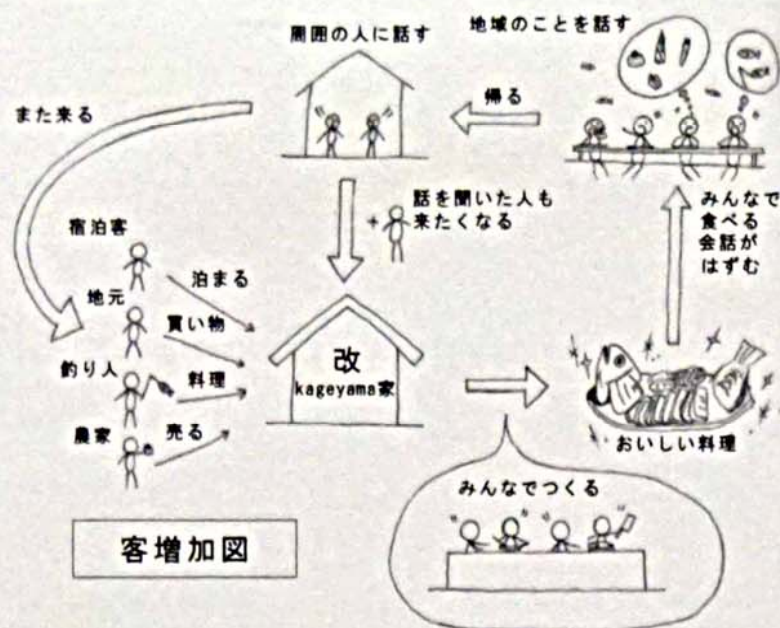


旧1階平面図 1:100

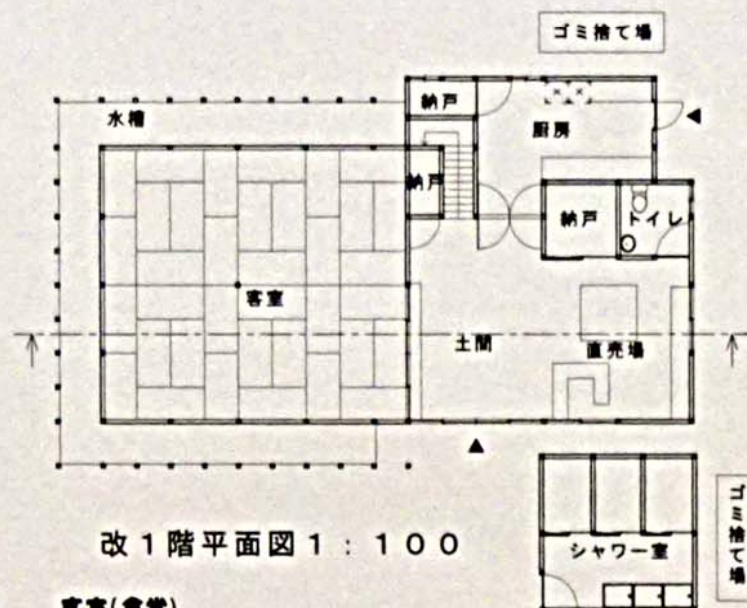
この空き家は大正4年に建てられたため昔ながらの和風な木造家屋である。持ち主がみかん農家だったため、作業する場として土間、納屋、倉庫などが広く設けられている。持ち主が亡くなり、みかん農家を継ぐ人も、買い手も見つからなかったため空き家となった。これらはこの地域の魅力を皆が理解していないからだ。だから私たちはこの空き家を地域の魅力を伝える場として食道、直売上、宿泊施設に改築し活用した。このように空き家が増えるごとに地域の魅力を伝える場が増えるという「空き家力」をつきたいと考えた。



旧立面図



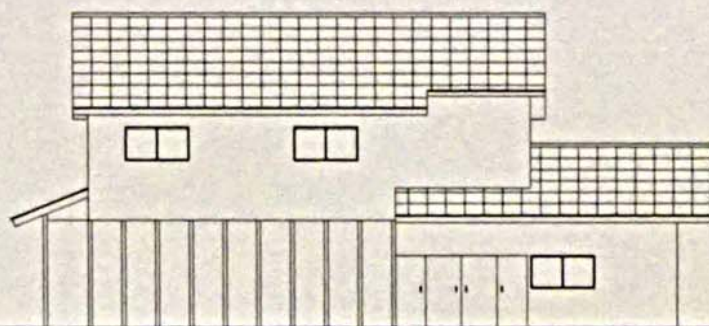
客増加図



改1階平面図 1:100

客室(食堂)

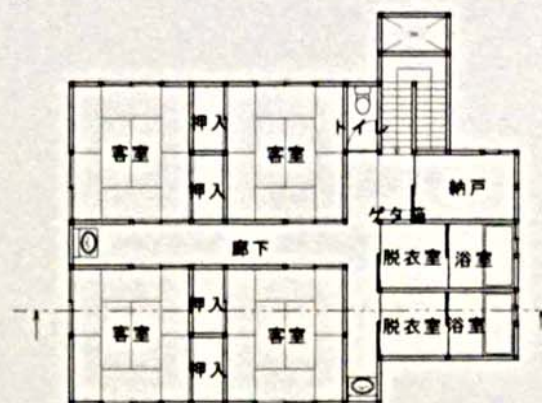
釣り人は魚を釣ってさばけないためにその場に魚を捨てていってしまう人がいる。その魚をさばいて食べれる食堂をつくることで釣り人を呼び込む。釣りは年、月によって釣り場や釣れる魚が変わるためその情報を知るために、釣り人は知らない人同士でよく会話をする。また、客室から見える浜名湖の魚たちでより浜名湖の魚を知ったり会話が盛り上がる。これらはこの地域の魅力を皆が理解していないからだ。



改立面図 1:100



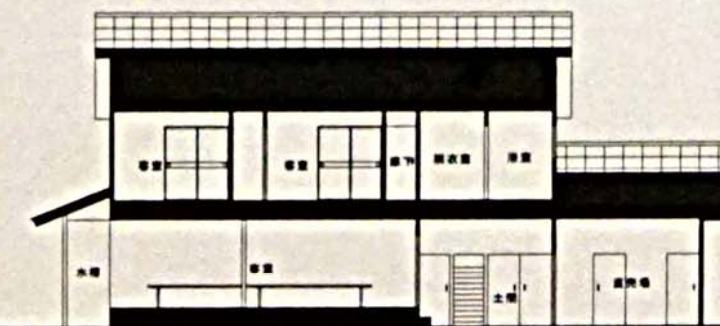
Kageyama家周辺図



改2階平面図 1:100

客室(宿泊)

ここの特産物であるみかんの収穫時期には多くのアルバイトが県内外からみかんの収穫の手伝いに来る。この人たちが少しでも、もつこの地域のことを知ったり興味をもってくれるきっかけとなるよう宿泊施設をもちこんだ。ここは食事付きで食事を下の食堂でとる。そこで今まで知らなかった魚や釣り客と交流したり、直売場でミカン以外の特産物を知ってもらう。こうすることでこの地域に住みたい人を増やす。



改断面図 1:100



浜名湖周辺図



Kageyama家周辺写真



旧Kageyama家8畳間2



改造後内観図



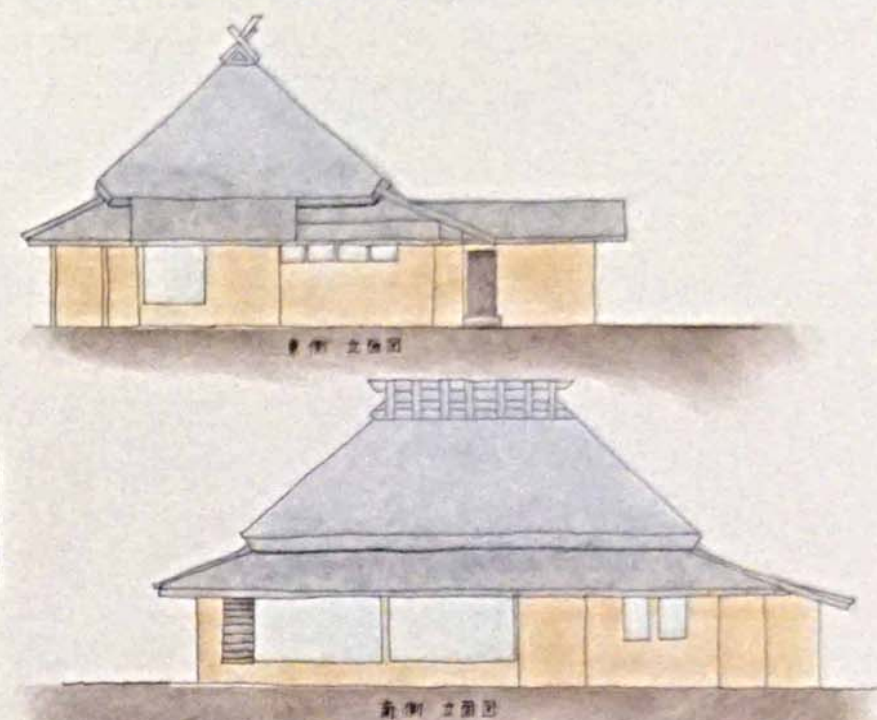
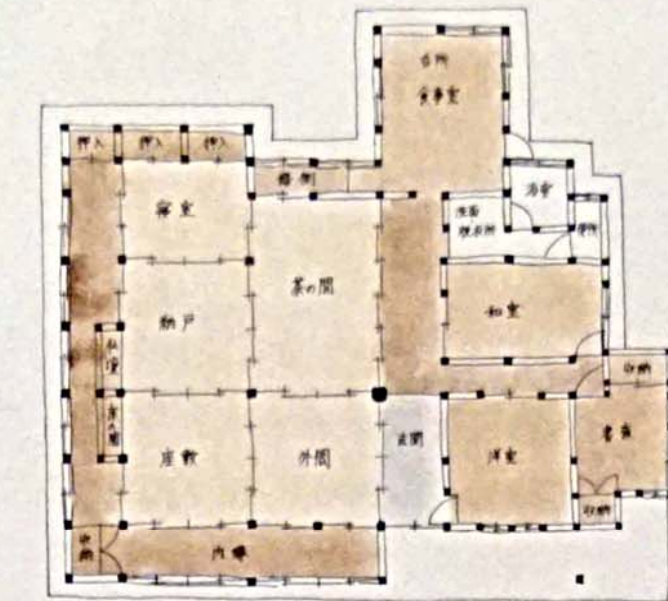
改造後外観図

直売場

直売場では地域の特産物を売る。売るコーナーは野菜を持ってくる農家ごとでアピールする。直売場は、近くに買い物する場がないのでお年寄りが歩いていき地域のスーパーとなる。買うことが目的だけでなく、会話をし、日々の楽しみをつくる場ともなる。また、広い土間スペースでは直売場に野菜を売りに来る農家と釣り客が出会い、魚にしか興味のなかった釣り客が地域の特産物にも興味を持つ場となる。



南側の客室からの風景



古民古書

[illegible]